

阿南 ぶらりまち紀行

ふるさと「阿南市」のすばらしい魅力を再発見!

～地域の輝き～

第87回

列島を旅する蝶が飛来するまち (椿町)



秋が深まり、木の葉が色付く季節。柔らかな陽が差す明神山の山道を歩くと、ふわりふわりと優雅に舞う蝶に出会う。浅葱色の美しい羽を持つ「アサギマダラ」。春には南から北へ、秋には北から南へと風を利用して「渡り」をする、日本で唯一の蝶は、1シーズンに東北から九州・沖縄までの間を移動する。その旅路は、ときに1000キロ以上に及ぶという。

四国最東部に位置し、アザミなどが自生する明神山は、四国有数の観察スポットである。そこで、長年にわたりアサギマダラの観察をしているのが撫中義美さん(76歳・椿町)だ。毎年、9月下旬になると、妻・喜代美さんとともに明神山へ出かけ、アサギマダラを捕獲しては、移動ルートなどを特定するための「マーキング」を行っている。「こんな小さな体のどこにあれほどの距離を移動する力があるのか、不思議なことがいっぱい。何年経っても好奇心は尽きません」。



自宅の庭でフジバカマを栽培している撫中夫妻



明神山から喜界島へ移動したことが、羽にマークした捕獲日などから判明



児童とマーキングをする撫中さん



温泉の進入路沿いに植えられたフジバカマ

10月18日、明神山で椿小学校全校児童によるマーキング遠足が行われた。虫取り網を持ってアサギマダラを追いかける子どもたちの中に、撫中さんの姿があった。今年で10年目になるといふ。「ほかではなかなか見られないアサギマダラと触れ合うことで、自然の豊かさを再発見し、生き物を大切にすることを養ってほしい」と指導にも情熱を注ぐ。列島を旅する蝶に出会った子どもたちは、その生命力と羽の美しさに感動していた。

昨年、撫中さんは、温泉のPRに役立ててもらおうと、かもだ岬温泉にフジバカマの苗を寄贈した。進入路沿いに植えられた無数のフジバカマには、多い日で50匹を超えるアサギマダラが飛来している。「わが町に飛んで来てほしい」という思いが呼び寄せたのだろう。移動ルートなど、まだまだ謎が多いとされるが、花の香りは風に乗り、海を越え、山を越え、南方をめざす浅葱色たちの嗅覚に届いていることは間違いないなさそうだ。